

【アドバイザーパートナー企業一覧】（27社／2023年4月時点）

MS&AD あいおいニッセイ同和損保

あおぞら銀行

Asahi

ABeam Consulting®

AON

KEL
KANEHATSU ELECTRONICS LTD.

KONOIKE GROUP

KOTORA

木と生きる幸福
住友林業

SEVEN&HOLDINGS

SOMPO ホールディングス

一生のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

Deloitte.
デロイト トーマツ

JR
JR東海

東洋経済新報社

JAL
JAPAN AIRLINES

FUJITA
Daiwa House Group

FUJITSU Marubeni

MIZUHO

三井住友信託銀行
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK

MUFG
三菱UFJ信託銀行

健康にアイデアを
meiji RICOH

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | 株式会社あおぞら銀行 | アサヒグループホールディングス株式会社 | アビームコンサルティング株式会社
エーオンジャパン株式会社 | 兼松エレクトロニクス株式会社 | 鴻池運輸株式会社 | 株式会社コトラ | 住友林業株式会社
株式会社セブン&アイ・ホールディングス | SOMPOホールディングス株式会社 | 第一生命保険株式会社 | デロイト トーマツ グループ | 東海旅客鉄道株式会社
株式会社東洋経済新報社 | 日本航空株式会社 | 株式会社フィリップス・ジャパン | 株式会社フジタ | 富士通株式会社 | 丸紅株式会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ | 三井住友信託銀行株式会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 株式会社明治 | 株式会社リコー ほか

プロフェッショナル・スタディーズWebサイトも
併せてご利用ください。

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト
<https://www.sophia-professionalstudies.jp>



講座はWebサイトからお申し込みいただけます。

TOP

講座紹介

ご希望の講座をタップまたはクリック（講座予約サイトへリンクします）

※企業会員の方は企業担当者を通じてお申し込みください。



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

問い合わせ先

プロフェッショナル・スタディーズ事務局

TEL: 03-3238-3552

E-MAIL: 企業会員の方 prostudies-co@sophia.ac.jp

個人会員の方 web_kookai-co@sophia.ac.jp

※ 講座内容や担当講師、開講時間等は変更の可能性があります。

2023年4月発行

上智大学
社会人プログラム
2023

SOPHIA PROFESSIONAL STUDIES



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

Sophia — Bringing the World Together

教養を実践智へ ～着想、構想、実装への アプローチ～

多様性ある議論の場に集い、

変革の時代に備えるべき、

マルチステージをデザインする“智力”を探究する

現代の社会変化は二つの相を成しているように思います。それは、間断なく訪れる予期せぬあるいは望まぬ事象により半ば強制的に余儀なくされる変化と、技術革新、人口問題などが複雑に絡み合う社会そのものの有り様の変遷から生じる変化です。前者のような短期の劇的な変化と、後者のような中期に移行する変化の螺旋の中で、個人も、組織も、そして社会も、学び続けながら新しい社会像を創っていく時代といえるでしょう。

人生100年と言われる中で、社会ではマルチステージへの対応を、と声高に叫ばれています。しかしながら、先述の変化の様相に鑑みるに、単なる対応ではなく、マルチステージそのものをデザインする力が要請されているのではないのでしょうか。マルチステージを自らデザインする力の源泉となり得るものとして、向き合う分野、業種、職種に対する専門性やスキルが挙げられます。一方で、デザインする力とは、着想に始まり、構想を経て、実装に至るプロセスを踏破する力であると思います。私たちの着想や構想を支える“智力”とは、教養に他なりません。そして、自分の信念や志を支える力、社会の変化を見通す力も、教養あってこそ具備することができます。さらに言えば、蓄積される知識としてではなく、実践智として発揮される教養が必要とされるのだと思います。上智大学プロフェッショナル・スタディーズでは、異質から着想を、混沌から構想を、信念から実装を、そんな智の訓練の場を提供したいと考えます。

社会のグローバル化、デジタル化によって、私たちは否応なしに世界の土俵に引き上げられます。国際通用性のある教養は、多様性の中で人と人との信頼関係を築く支配的な要素になるでしょう。上智大学プロフェッショナル・スタディーズが、教養の実践智への昇華と、その国際通用性をもって、受講生に個性を磨く貴重な時間をもたらすことを切に願います。磨かれた個性が切磋琢磨する組織や社会は、私たち自身に、新たなステージへの大いなるヒントを与えてくれるものと確信します。



上智大学長 畔道 佳明

日本社会が持つ課題とグローバル社会の変革

グローバル市民・人材像の変化
グローバル×高度情報化社会の到来
個人・組織が学び続ける時代

価値・倫理が変わる時代
信念、理念が問われる時代

国際通用性

変革の時代に
社会が備えるべき“智”を再考

創造性

国際通用性を持つ教養

人間性の陶冶
多様性社会の真の理解
グローバル社会を俯瞰する視野
グローバル・ローカルの双方向視点
歴史と宗教が示唆する世界理解
国際的視点から見た日本の理解と発信
交渉力
など

創造性を発揮する教養

信念、理念、倫理の創出
価値の創造
イノベーションへの着想
課題へのアプローチ法の導出
構想とデザイン
社会展望力
論理的思考、批判的思考
など

OUTLINE

上智大学プロフェッショナル・スタディーズとは

「上智大学プロフェッショナル・スタディーズ」は、実業界と本学が一体となって産学協働の学びの場を創成する新たな試みです。プログラムは、国際通用性と創造性を高める「教養講座」、交渉学、国際会計など、専門性を磨く「スペシャリスト養成講座」、各分野の専門家や著名人により社会展望力を醸成する「スペシャルトーク」という3本の軸で展開します。本学の教員、名誉教授を中心に各講座のコーディネーションを行い、学内外からの講師陣を配置。ビジネススキルの向上とは一線を画し、また単なる学術的な講義の提供でもない、新たな学びの場として、新しい社会、ビジネスの創造に向けた革新的な着想を引き出す工夫を加えた講座を展開します。

教養講座

1講座全6回 | 各回90分

上智大学ならではの社会の切り取り方で、多様性のある国際社会において信頼を獲得し、同時にイノベーションへの着想や新しい価値の創造を導く6種の講座群を配置。

講座群

▶ 人間の本質と倫理、哲学

▶ 歴史、宗教に学ぶ世界の俯瞰

▶ グローバルな視野とローカルの視点

▶ 良質な社会に向けた責任とアクション

▶ 科学から読み解く社会像

▶ 交渉のための論理と批判

スペシャリスト養成講座

1講座全8回 | 各回90分

国際性、社会貢献、コミュニケーション力といった上智大学の強みを反映させ、現代社会の課題に対して、一定の水準に到達できる専門性の高い講座を配置。

教養講座、スペシャリスト養成講座は、春学期・秋学期に分け、平日15:30～17:00、18:30～20:00、土曜日の日中に開講します。
※一部講座は、これらの時間区分によらず開講する場合があります。詳細はWebサイトにてご確認ください。

スペシャルトーク

年間6回開催予定

開催内容はWebサイトにて随時公表
混迷を続ける社会のグローバル化に焦点を当て、グローバル経済の動向、国際関係の行方、グローバルリスクなどの喫緊の課題を取り上げ、各分野の専門家や著名人を招き紐解きます。



会員区分について

上智大学プロフェッショナル・スタディーズは、実業界と本学が一体となって産学協働で学びの場を創生する、従来とは全く異なるかたちの産学連携プロジェクトです。会員区分はアドバイザーパートナー企業会員とスタンダード企業会員の2種があり、会員区分により特典(受講枠など)が異なります。また、企業会員のみならず、各講座ごとに受講料をお支払いいただくことで、個人の方のご受講も可能です(個人会員)。

アドバイザーパートナー

現在27社の企業にアドバイザーパートナーとして、ご参画をいただいております。アドバイザーパートナー企業の皆様には連絡協議会への参加を通じ、講座への企業側からのニーズやビジネスの最前線で求められる国際通用性などについてご意見を頂くなど、本プログラムの構築にご協力をいただいております。 ※企業一覧はうら表紙

■ 参画・受講会員区分

- ①アドバイザーパートナー企業会員
- ②スタンダード企業会員

※アドバイザーパートナー・スタンダード企業会員特典については、プロフェッショナル・スタディーズ事務局までお問合せください。

- ③個人会員

■ 参画・受講申込方法

- ①アドバイザーパートナー企業会員
- ②スタンダード企業会員

として参画を希望される場合

→プロフェッショナル・スタディーズ事務局
TEL:03-3238-3552
E-MAIL: prostudies-co@sophia.ac.jp
までご連絡ください。

- ③個人会員として受講を希望される場合

→プロフェッショナル・スタディーズのWebサイトより申込を受け付けます。申込方法や開講スケジュール、受講料等、詳細はWebサイトにてご確認ください。

■ 参画・受講料

- ①アドバイザーパートナー企業会員

メンバーシップ料:500万円／2年(税込)

- ②スタンダード企業会員

メンバーシップ料:100万円／2年(税込)

- ③個人会員

・教養講座
1講座:10万円(税込)

・スペシャリスト養成講座
1講座:15万円(税込)

・スペシャルトーク
※Webサイトにてご確認ください。

アドバイザーボードメンバー紹介

プロフェッショナル・スタディーズでは、アドバイザーボードを設置し、以下5名のメンバーに本プログラムの構築・運営に参画いただき、本学と産業界との連携にもご尽力いただいております。

上智大学特任教授

野村アセットマネジメント株式会社 取締役会議長
カリフォルニア大学バークレー校ハースビジネススクール 理事
議長 山本 誠一郎

1985年慶應義塾大学経済学部卒業後、安田信託銀行(現みずほ信託銀行)に入社。1999年に米サンフォードCバーンスタイン社に入社。2012年から2019年までアライアンス・バーンスタイン社日本法人の代表取締役社長、会長、本社パートナーを歴任。2019年にY-Labsを創業、次世代支援活動に従事。2021年より野村アセットマネジメント社取締役会議長に就任。カリフォルニア大学バークレー校経営大学院卒(MBA)。

前ノバルティスファーマ株式会社 取締役会長

鳥居 正男

1975年上智大学国際部経営学修士課程修了。1992年ハーバードビジネススクールAMP修了。1971年日本ロシュ入社。1983年から1987年までアメリカとスイスの Hoffman-La Roche社 に出向。1993年 ローヌ・ブーランローラー株式会社代表取締役社長。1995年 シェリング・プラウ株式会社代表取締役社長。2011年ペーリンガー・インゲルハイムジャパン株式会社代表取締役社長、2011年エスエス製薬株式会社代表取締役社長兼務。2016年ノバルティスホールディングジャパン株式会社代表取締役社長。2020年よりノバルティスファーマ株式会社取締役会長。2021年8月退任。上智大学ソフィア会会長、上智大学評議員。

上智大学特任教授

一般社団法人日本防災プラットフォーム 代表理事

西口 尚宏

上智大学経済学部卒。ノースウエスタン大学ケロッグ経営大学院卒(MBA)。世界銀行グループワシントンDC本部などで計8年米国勤務。外資系コンサル会社パートナー、産業革新機構執行役員等を経て現職。イノベーション・マネジメントでスウェーデン国立研究所(RISE)認定のプロフェッショナル資格を持つ唯一の日本人、内閣府ムーンショットアンバサダーなど政府委員会委員を歴任する等、産官学にまたがる幅広いグローバルネットワークを有する。

一般社団法人アジア・ソサエティ・ジャパン 事務局長

日高 佐和子

2018年9月に新たに設立されたアジア・ソサエティ・ジャパンの初代事務局長に就任。外資系金融機関で25年以上にわたリスタートアップ、マーケティング、コーポレートサービス部門をリードしてきた経験を持ち、組織の成長のために強固な業務基盤を構築した経験を持つ。金融業界以外にもアート業界への関心からニューヨークの美術館にも勤務した経験を持つ。

増山&Company合同会社 代表社員社長

立命館大学大学院経営管理研究科客員教授

増山 美佳

日本銀行に勤務後、Cap Gemini Sogeti本社(在仏)にてInternational Marketing Director就任。帰国後、市場参入戦略、M&A及び組織・業務改革等コンサルティングに従事。エゴンゼンダー株式会社パートナーを経て、新会社設立。サントリー食品インターナショナル株式会社社外取締役(監査等委員)、コクヨ株式会社社外取締役、鴻池運輸株式会社社外取締役、メットライフ生命株式会社社外取締役を兼任。経営陣の後継者選抜と育成(サクセッション・プランニング)、人財・組織開発(多様性DE&Iの導入等)、エグゼクティブ・コーチング、ガバナンス(取締役会の有効性評価、人事報酬委員会準備支援・運営)を専門分野とする。上智大学法学部国際関係法学科卒。INSEAD MBA。経済同友会会員。

LINEUP

講座ラインナップ



「今」を紐解く7つのキーワードから
興味のある講座を見つけてみてください。

 **伝統文化から見た
日本** ▶P.08

歴史、宗教に学ぶ 世界の俯瞰

  
**グローバル組織が直面する
文化摩擦とその克服**
～ローマ・カトリック教会の
世界伝道の試行錯誤に学ぶ～ ▶P.09

 
イスラームをどう理解するか？
～原理・原則と多様性を考える ▶P.10

 
**越境する
日本文学と美術** ▶P.10

 
**グローバルリスクと
戦略的コミュニケーション** ▶P.11

グローバルな 視野と ローカルの視点

 
海と安全保障 ▶P.11

 
アフリカの智に学ぶ
～サハラ以南アフリカの慣習や文化から～ ▶P.07


身体知の実践
～ソマティックな
人間観に依拠して～ ▶P.08

 
**グローバル・ヒストリーズ：
世界のつながりを紐解く歴史観** ▶P.09

 
**世界最小国バチカンから
世界最大級の影響力を読み解く**
～教皇庁の歴史と外交から～ ▶P.09

 
**アジア・太平洋戦争
(1941-45年)をふりかえる** ▶P.10

 
**21世紀における
「グローカリズム」と持続可能性：**
日本列島におけるレジリエンス及び
ダイナミックな順応的管理の可能性を探る ▶P.10

 
アフリカのいまを知る
～ステレオタイプを越えて～ ▶P.11

 
Environmental Issues in the 21st Century :
A Case Study Approach to Practical Learning ▶P.12

 
**人・自然・社会の持続可能性と
インテグラルエコロジー** ▶P.07

人間の本质と 倫理、哲学


仕事に生かす哲学的対話
～深く豊かな思考のために▶P.08


アサーション入門
～自他尊重の社会に向けて～ ▶P.13


**社会課題を起点とする
イノベーションの興し方**
～当該分野の国際規格の
世界動向も学びながら～ ▶P.13


障害者の心理学
～差別や偏見のない
共生社会の実現に向けて～ ▶P.13

 
**SDGsと
グローバル化の哲学** ▶P.07


**病とともに
「生きる」を支える** ▶P.12


**ジェンダー・セクシュアリティの
社会学入門** ▶P.12

良質な社会に向けた 責任とアクション

 
**サステナビリティ社会における
企業の環境戦略**
～法、政策、最前線の現場から ▶P.14


**マジョリティ側から
ダイバーシティを考える：**
特権と立場の心理学 ▶P.14


質問力を磨く[実践編]
～脱・思考停止～ ▶P.17

 
国際会計
～ IFRSの会計情報と
グローバル企業の財務分析～ ▶P.18


ビッグデータ利活用：
基礎と応用 ▶P.14


先進技術と基礎科学
～意思決定の依拠を考察する～ ▶P.15

 
**現在・過去・未来をつなぐ
生命科学概論**▶P.14

科学から 読み解く社会像


**デジタル駆動社会と
Beyond 6G** ▶P.15

 
**イノベーションを推進する
ソシオ・エコシステム** ▶P.16


**変動する地球環境の中で
生き残りをかけて：**
食料と環境の科学概論 ▶P.15


交渉学入門：
より良いネゴシエーターとなるための
理論とスキル ▶P.16

交渉のための 論理と批判

 
グローバルコミュニケーション・リテラシー
～グローバルメディアの変容と相互理解 ▶P.16


質問力を磨く[入門編]
～脱・思考停止～ ▶P.16


交渉力を磨く
～人を動かす交渉・コミュニケーション術：
“納得”の導き方～ ▶P.17


傾聴力を磨く
～部下のため、部署のため、
そして会社全体のために～ ▶P.17

スペシャリスト養成講座

 
**コロナ以降の環境をめぐる
企業のパラダイムシフト：**
コロナ以降企業は変革に向けて
どのように対応していくのか ▶P.18


データサイエンスの実践
～資産化するデータと技術～ ▶P.18

 
歴史の理論と文明論
～歴史に学ぶ、歴史から考える
「今」という時代と社会～ ▶P.18

教養講座

人間の本質と
倫理、哲学

講1111 人・自然・社会の持続可能性と
インテグラルエコロジー

教皇フランシスコが環境問題についての回勅『ラウダート・シ』とともに暮らす家を大切に』は、信徒に限らず世界中の多くの人々に広く読まれています。教皇はこの文書の中で、脆弱な自然と社会の中で弱く貧しくされた人々の密接なつながりを繰り返し強調しています。そして、私たちの本来のあり方として、キリスト教ヒューマニズムにもとづく「インテグラルエコロジー」の概念を提示しています。「インテグラルエコロジー」とは、かわり存在としての人間観にもとづくエコロジー概念で、人間が有する4つの基本的な関係軸「自己とのかかわり」、「他者とのかわり」、「自然とのかかわり」、「神とのかかわり」の本来の調和をしめしています。本講座では、インテグラルエコロジーを参照しつつ、持続可能な社会をつくるヒントを、ローカルベンチャー事業、困難を抱えた若者の居場所や協働の場づくりに取り組んでおられる方々の実践に学びながら、超越的な次元をふまえてキリスト教人間学的に、持続可能な社会と生きる意味や価値を考えてみたいと思います。

開講のねらい

SDGsの取り組みや持続可能な社会づくりは、すべての人々にとって“シチズンシップ(市民性)”にかかわる共通の課題です。本講座では、経済的・技術的アプローチのみならず、超越的な次元をふまえた人間理解に連なる倫理的・社会的アプローチを視野に入れて、多様な次元の持続可能性について考えてみることを重視しています。

講1112 SDGsとグローバル化の哲学

日本政府の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、哲学など人文学の知見を基盤として、「直面する脅威に対し、持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」を目指す、とうたわれています。個人も社会も、対症療法的なリスクヘッジにとどまらず、より人間的な目的を実現する視点と規範をもつことが必要とされているのです。この講座では「一人ひとりのwell-being」を考えながら、グローバル化に関わるSDGs(持続可能な開発目標)の諸項目について、あらためてその内容を検討したいと思います。

開講のねらい

今や国連も各企業も取り組みを求めるSDGsですが、その目標の核心となるのは「平和、平等、公正、幸福」などの哲学的理念です。日本政府もまた人文的思考の重要性を強調しています。本講義ではそれらの理念について、その哲学的な内容と意義をとともに考えます。

講1211 アフリカの智に学ぶ
～サハラ以南アフリカの慣習や文化から～

日本からは縁遠く思えるアフリカ。しかしその暮らしや文化・芸術から、私たちの考え方・生き方を見直すきっかけが得られることもあります。本講座では、前半は西アフリカを対象地域とし、民話の中の紛争回避の知恵や(永井)、フランスのロードムーヴィーに見るアフリカへの自由なアプローチ方法(千葉)、児童文学における子どもの自己形成や社会問題の描かれ方(村田)を探ります。後半は、アフリカ文化の理解や影響を国際社会の中に位置づけて考えます。私たちが学ぶアフリカ文化について教育観点から概観したうえで(山崎)、経済への影響(ドンガラ)、現代音楽に見るアフリカの影響や思想的背景について考えます(ママドゥ)。

開講のねらい

普段よく目にする報道からは見えづらいアフリカの諸相を紹介します。アフリカの国々や人々との、今後の皆様のつきあい方を考える上でのヒントになれば幸いです。

担当コーディネーター

基盤教育センター 教授
吉川 まみ

人間の本質と
倫理、哲学

講1212 身体知の実践 ～ソマティックな人間観に依拠して～

身体をテーマ化することの現代的意義について、現代社会論の文脈で議論することから本講座はスタートします。現代社会やマスメディアを席卷する身体をめぐる様々な社会現象がどのような問題性を孕み、その結果どのような身体観を人々にもたらすのかを探ることその特性を捉えます。社会的に築かれた現代的身体観こそが、その延長としての世界構築の枠組となり、それが科学技術優先主義や経済合理性によって牽引されて今日に至るのです。この文明化の過程では機械的合理性がもてはやされ、一方でないがしろにされてきたのは「身体知」「身体性」や「内なる身体(ソーマ)」への配慮です。多様な職業的背景をもった講師陣は、それぞれ固有の身体性やソマティックなワークを実践しています。参加者全員が体験する参加型の講座を通して、身体知の存在を肌で感じ、理解し、その感覚経験がより良き世界の構築にどのように活かせるのかを学ぶことになります。混迷する時代であることが、かえって本講座の存在意義となるのです。

開講のねらい

今日の科学技術の著しい進歩・発展には目をみはりますが、一方で構築された文明(環境世界)が人間社会にもたらす有害性(格差、災害、核問題等)も許しがたい状況にあります。このような時代に、人は何を根拠に生を再考し、新たな社会構築の方向性を見出すのでしょうか。いまこそ、近・現代を牽引してきた近代合理主義を形づくる科学知を相対化する知の在り方が求められます。人間が人間である根拠となる身体、特に内なる「身体的自然」、一人称の気づきから出発する社会構築の意味と意義を見出すのが本講座のねらいです。

講1213 仕事に生かす哲学的対話 ー深く豊かな思考のために

哲学は古くからある学問分野ですが、大学の研究室や教室に閉じ込めておくのはおかしいことです。というのも、哲学とはもともと学問分野ではなく、「知を愛し求めること＝philosophia」であり、人間と人間を取り巻く世界に知的な好奇心を持つ人なら、誰でも取り組むことのできる知的活動だからです。18世紀の大哲学者イマヌエル・カントが「世界概念の哲学」を「学校概念の哲学」から区別し、前者が本来の哲学だと論じたことが、それをよく表しています。哲学的思考の対象となる問は、私たちの生活・人生＝lifeのそこかしこに潜んでいます。もちろん、私たちの仕事の場にも。そうした問いを拾い上げ、対話を通して一緒に考えてみませんか。それは楽しいだけでなく、仕事の場で出会う様々な問題を解決するのに役立つ、深く豊かな思考を育むことにもなります。対話の後で、考え続けるヒントを過去の哲学者の言葉の中から紹介します。

開講のねらい

哲学的な問いを自分で考え、他の人々と対話しながら考えることによって、職業生活や社会生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

講1121 伝統文化から見た日本

日本の伝統文化といわれて何を思い浮かべるでしょうか？ コロナウィルスとの戦いでもあった東京オリンピックの最中に、「日本のお家芸である柔道」というようなフレーズをたびたび耳にされたことと思います。確かに柔道のような武道文化は日本古来の伝統文化と考えてよいものです。それでは、その武道文化の形成はどこにルーツをもち、どのような過程を経て出来上がったものなのでしょうか。この講座では、日本の伝統文化とされるものの中から、表象文化・食文化・身体文化・文芸に属するものとして、絵画作品(南画)・煎茶・武道(武道伝書)・古典文学作品を取り上げながら、そのルーツや展開の過程などを一緒に考えてゆきたいと思います。

開講のねらい

形式張って、古くさいもののように見なされる日本の伝統文化を、文献資料に基づきながら新たな視点から読み解いてゆきます。

担当コーディネーター

名誉教授
鈴木 守

担当コーディネーター

文学部 哲学科 教授
寺田 俊郎

担当コーディネーター

文学部 国文学科 教授
長尾 直茂

教養講座

歴史、 宗教に学ぶ 世界の俯瞰

講義 1122 グローバル・ヒストリーズ：世界のつながりを紐解く歴史観

現在でもグローバルに蔓延し多くの被害を出しているコロナ・ウィルスに代表されるように、19世紀以降、帝国や地域のボーダーを越えて移動し、ローカルの文化・社会・思想等に大きな影響を与える事象が多々存在しています。本講義では、近年歴史学の分野で注目されているグローバル・ヒストリーの視点をを用いて、国境を越えて移動するモノ・ヒト・主義・思想などを対象とし、世界との「つながり」を過去に遡って明らかにしていきます。この歴史学的探求は、単に過去を理解することではなく、私たちが生きる現代との「つながり」を見いだすプロセスでもあります。今回は、ヨーロッパ、アフリカ、北米、アジア、太平洋地域などを舞台とし、それぞれの地域の専門家が移民、食、ジェンダー、衣食等のテーマを取り上げ、グローバルな視点から歴史をみていきます。そして、その視点を現代社会の課題にアプローチするにあたってどのように応用できるかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。すべての講義はオンラインですが、7月28日(仮)には大学ツアーを兼ねて、対面での懇親会を予定しております(状況により変更・中止もございます)。

開講のねらい

歴史学とは私たちがどのような文脈から過去を紐解いていくかの作業であり、その作業を通じて多くの「物語」が構築されます。中学・高校時代の暗記中心の歴史から解放され、グローバルな視点からの歴史観を考えましょう。

講義 1221 世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く ～教皇庁の歴史と外交から～

現在、国際情勢は目まぐるしく変化しています。各国は国際情報戦に大きな関心と努力を注いでいます。そうした国際情勢の中、外交政策などにおいて特に注目すべきは、世界最小の主権国家「バチカン」です。経済力も軍事力も有さない小国バチカンは、現代国際政治のなかで大きな影響力を発揮しているのは、その「ヒューミント」力、すなわち、政策担当者間の個人的・人間的つながりによる外交力に他なりません。その世界最小にして、最大の国際的影響力をもつ国家、「バチカン」について、歴史、宗教、外交、政治などの多角的側面から、各分野の第一人者を講師に招き、ともに議論を深めます。

開講のねらい

国際関係は、主として莫大な予算と規模、そして力関係でとらえられることが通常です。しかし、「バチカン」の例外を通して、国際的な影響力が発揮されることがいかなることかと問い、それは、ひとえに「人間」関係構築につきるということを理解できればよいと考えています。日本の社会人にとってこの例外「バチカン」の存在が何らかのヒントを与えることでしょ。

講義 1222 グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服 ～ローマ・カトリック教会の世界伝道の試行錯誤に学ぶ～

長い歴史を経て、今も存続しているどんな大組織も最初の姿のままで今に至っているわけではないでしょう。たくさんの挑戦や難題に直面して、自己変革や適応を経て今の姿になっていると思います。2千年の歴史を持つローマ・カトリック教会もその例にもれず、1世紀から現代にいたるまで世界のすみずみまで出かけていきましたが、現地の文化と摩擦を引き起こしたり、政治に巻き込まれたり、内部分裂の危機も味わい、困難だらけの歴史でした。初期のギリシャ世界、ペルシャ、インド、中国、南米、日本などでの伝道の苦労の多いものでした。しかし、今なお、根本のアイデンティティーを中核として維持し、世界のすみずみで存在する世界宗教として続き、信徒数も増えています。本講座では、教会や宣教師が出会った困難やそれへの対処の工夫の歴史を見つめることにより、種々の分野でグローバルに活躍する方々に発展的な学びが得られるようにと願っています。

開講のねらい

世界を相手にする組織は、地域や時代によってさまざまなチャレンジに直面し、本質を失わずに適応し、変容してきました。その例を見ながら、永続する組織のあり方を考察したいと思います。

担当コーディネーター

外国語学部 英語学科 教授
飯島 真里子

担当コーディネーター

文学部 史学科 教授
川村 信三

担当コーディネーター

名誉教授
山岡 三治

歴史、 宗教に学ぶ 世界の俯瞰

グローバルな 視野と ローカルの視点

講義 1223 アジア・太平洋戦争(1941-45年)をふりかえる

現在11の国からなる東南アジアの大部分の地域は、1941年から45年までのアジア・太平洋戦争期に日本軍の占領下におかれました。1945年8月の敗戦からすでに80年近くが経ち、日本と東南アジア諸国はアジアの隣人として、とくに経済面での相互依存、交流を深めています。日本で暮らす東南アジア出身の人たちも増えてきました。これからの日本と東南アジアの関係を展望する上で、いま一度、歴史をさかのぼり、1941年から45年の戦争がどのようなものであったかをふりかえります。この講座では、まず、アジア・太平洋戦争の全体像を検討し、つづいて各国、地域における占領、戦争に焦点をあてて講義します。さらに戦後の日本との関係についても考えていきます。

開講のねらい

日本でも東南アジアでも戦争の記憶は薄れてきています。東南アジアの人々とのつきあいを深める上で、きちんと歴史的な事実を整理して理解しておくことが大事ではないかと思います。

担当コーディネーター

名誉教授
私市 正年

講義 1131 イスラームをどう理解するか？－原理・原則と多様性を考える

今日、世界のムスリム(イスラーム教徒)人口は15億人ともいわれ、日本にも東南アジア出身者を中心に20万人以上のムスリムが生活しています。しかしイスラーム(教)程、わかりにくい宗教(思想)はないかもしれません。その一つの理由は原理原則(理念)と現実論との間の乖離です。イスラームは原理原則を重視しますが、世界各地に拡大したことから推察できるように地域や時代状況に応じて非常に柔軟な対応をしてきました。宗教としてのイスラームの理解には、この多様性の現実に目を向ける必要があります。本講座では多様性と柔軟性という視点から、イスラームの歴史と思想を概観した後、イスラームを政治、経済、社会生活の三つの側面から考えていきます。その上でイスラームの理念が、現実の社会、政治や経済の中でいかに機能しているのか、マレーシアと日本のイスラームの事例をとりあげて議論をしたいと思います。

開講のねらい

本講座のねらいは、宗教を教義や理念だけから狭く考えることがいかに問題であるか、イスラームを事例に考えること、およびイスラームを通じてグローバル次元で宗教と政治、経済の関係の多様性の現実を見ることです。

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授
まくどなるど あん

講義 1132 21世紀における「グローカリズム」と持続可能性： 日本列島におけるレジリエンス及び ダイナミックな順応的管理の可能性を探る

日本の地域イニシアチブは世界の持続可能性にどのような貢献ができるでしょうか。本講義では日本に注目します。日本人に日本を語ってもらうのではなく、本講義ではあえて日本の大学に拠点を置く外国人の専門家にその経験や見解を共有してもらいます。「日本」の専門家として国内外で活躍する講師陣は、国内のみならず国際的な視点も示すことができます。多様な視点の共有により、参加者の間で活発な議論が促されることを期待します。

開講のねらい

グローバル市民として、ローカルな視点とグローバルな視点で世界の問題について一緒に考えていきましょう。

担当コーディネーター

国際教養学部 国際教養学科 教授
ユー・アンジェラ

講義 1231 越境する日本文学と美術

日本文化の根元が伝統文化と外来文化との双方から養われているという特徴があり、特に近・現代の日本文学や美術に越境性が満ちた作品が溢れています。海外からの要素を取り入れると同時に、日本の特色も海外へ影響を与え、その双方向の刺激による創作過程で新たな複合性をもつ近・現代の日本文学・美術が生まれました。本講座では、1945年以降、越境性の高い文学・美術作品に焦点を合わせて、なぜ世界的に読まれたか・鑑賞されたかを考察し、日本文化の複合性・ハイブリッド性を評価し、日本と世界との境界線をぼやかしながら、その接点を探求します。

開講のねらい

「世界とのつながり」が開講のねらいです。人類は原初から絵を描き、物語を作ります。美術と文学は人類共通の「言葉」です。日本文学、映画、美術の趣を探求し、海外の友達と「世界のJAPONISME, KAWABATA, MODANIZUMU, KUROSAWA」などについて歓談してみませんか？

教養講座

グローバルな 視野と ローカルの視点

講義 1232 アフリカのいまを知る～ステレオタイプを越えて～

担当コーディネーター

外国語学部 ポルトガル語学科 教授

矢澤 達宏

21世紀に入って以来、サハラ以南のアフリカに対する認識はいくらか変わってはきているかもしれませんが。従来から存在した貧困や感染症、政治的不安定の問題は、世界全体の問題としてとらえられるようになり、援助のあり方もドナー側の一方的な「上から目線」のアプローチは見直されてきています。また、資源等を原動力とする経済成長や、世界に残された最後の巨大市場といった可能性に注目が集まり、アフリカの肯定的な側面がクローズアップされてもきました。こうした傾向は、従来からの画一的なアフリカ認識を覆す意味では望ましいものといえるでしょう。しかしながら、上述の様々な問題が具体的にどのようなかたちで、どの程度の規模で生じており、それがどのように世界と結びついているのか、実感の持てない人も少なくないと思います。そこで本講座では、独立後の現代史、経済、人の国際移動、環境、保健医療、政治といった分野ごとに、こんにちのアフリカの具体的な状況と課題を明らかにしていきます。

開講のねらい

アフリカは貧困、混乱といった従来の顔の合間に、発展や安定といった新たな顔をのぞかせています。変容の過渡期なのか、分極化の予兆なのか、コインの裏表なのか。それは私たちとどう関わってくるのでしょうか。

講義 1233 グローバルリスクと戦略的コミュニケーション

担当コーディネーター

文学部 新聞学科 准教授

国枝 智樹

グローバル化の進展は企業に様々な機会とリスクをもたらし、新たな戦略的コミュニケーションのニーズを生み出しています。政治や経済領域における国際摩擦や世界情勢の多極化、価値観の多様化がもたらす多種多様なリスクを戦略的なコミュニケーションによって早期に察知・分析し対応することは、国際社会で信頼される組織としての地位を確立し維持する上でも不可欠です。適切なタイミングや内容で行われるコミュニケーションは組織を、時には人命や社会を救うことにも繋がりますが、その失敗は大きな損失をもたらしかねません。国際的なルール変更といったリスクについても、オピニオンリーダーや社会とのコミュニケーションが重視されています。本講座では、欧米を中心に発展したリスクや危機・クライシスに対する戦略的コミュニケーションの理論や歴史に基づき、過去や現在の事例について議論をすることで、グローバルリスクへの向き合い方について考えます。

開講のねらい

世界情勢の多極化や競争の激化、価値観の多様化がもたらす様々なグローバルリスクに対応する上で、政府や企業に求められる戦略的なコミュニケーションとは何でしょうか。歴史や理論、事例を通して考察します。

講義 1234 海と安全保障

担当コーディネーター

総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授

都留 康子

国際社会の動きは激しく、今日、日本の安全保障についてもあらためて考えなければならない状況になっています。日本は、いうまでもなく四方を海に囲まれており、周辺国、とりわけ中国の海洋進出は大きな脅威にもなっています。また、ロシアとの関係も予測がつかません。一方、海は、軍艦や船舶航行だけではなく、漁業資源、エネルギー、環境にとつての海と様々な顔を持っています。これらは日本の経済、人々の暮らしそのものを支えていて、大きな意味での安全保障の問題ともいえるでしょう。全6回の講義では、日本を中心とする海洋問題とその現状、解決策を、国際政治の視点、国際法の視点、また国際交渉の現場の視点から俯瞰していきます。政治・交渉の場は、法を作り出し、今度はその法が政治を統御します。そうした相互作用についても知見を得られるでしょう。

開講のねらい

COVID-19やロシア問題を通して、日本が他国との相互依存関係にあることを痛感したのではないのでしょうか。物流にとって海が重要なのはもちろん、エネルギー、環境問題、近隣諸国との安定的な関係など、すべてに海を抜きにしては考えられません。海との関係性から受講者それぞれの仕事や生活を考察するとどうなるのか、一緒に考えていきたいと思います。

グローバルな 視野と ローカルの視点

良質な 社会に向けた 責任とアクション

New TOPIC!

受講者からの声により英語による講座を新設！
環境学をテーマとしたディスカッションがメインの講座です。

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授

まくどなると あん

講義 1235 Environmental Issues in the 21st Century : A Case Study Approach to Practical Learning

Environmental studies is an emerging interdisciplinary discipline that some hope will become the force needed to drive a paradigm shift to sustainable futures for our global society. Although much is being done in the area of theory, this course will focus on the practical by exploring environmental studies through the study of real life case studies.

開講のねらい

It is the aim of this course to help students increase their environmental issues knowledge sets and further both their ability to analyze environmental problems and increase their understanding of the trade-offs – benefits, losses and liabilities- behind the choices we make when considering environmental challenges and the potential paths to realizing a sustainable future for both humankind and other living organisms inhabiting planet Earth.

And, The aims of this course is to learn, think and talk about environmental issues and challenges we are facing in the 21st Century. The course is being taught in English to encourage participants to learn about our common global environmental issues in English. Interest in the environment and learning in English are key but no one is required to have a background in environmental studies.

担当コーディネーター

総合人間科学部 社会学科 准教授

石井 由香理

講義 1141 ジェンダー・セクシュアリティの社会学入門

ジェンダーやセクシュアリティについては、たくさんの玉石混合な情報が、ネットや市中、日常生活のなかにあふれています。そうしたたくさんさんの情報から大切な取捨選択をするための前提知識の獲得、および、さまざまな情報を積み上げるための土台を築くことが本講座の学びの目的です。前半は、ジェンダーについて学びます。どのようなところにジェンダー格差が存在するのかを確認するところから始めましょう。また、ジェンダーの異義申し立てはなかったことにされたり、軽く見られたりしますが、それにはどのようなテクニックが用いられているのでしょうか、確認してみましょう。セクシュアリティに関しては、LGBTQ / SOGIEについて取り上げます。「LGBTQ」「SOGIE」を学ぶ際に、重要な視点とは一体何なのでしょう。歴史などを簡単に振り返りながら、社会学の知見から、理解されるべきポイントの基本は何であるのかと一緒に確認しましょう。講義では、事前にテキストを配布しますので、それを読んできたうえで、講義にご参加ください。

開講のねらい

ジェンダー・セクシュアリティについて、あなたの周囲や社会をよりよく変えていくために、必要な知を獲得しましょう。

担当コーディネーター

総合人間科学部 心理学科 教授

横山 恭子

講義 1142 病とともに「生きる」を支える

日本人が一生のうちに癌と診断される確率は、2019年データに基づく計算では、男性65.5%、女性52.3%と言われています（国立がん研究センター情報サービス）。また、生涯で「がん」で死亡する確率は、男性26.2%、女性17.7%となっています（国立がん研究センター情報サービス）。がんはすっかり身近な病気となりました。その「がん」の治療の進歩は目覚ましく、不治の病から慢性疾患へ位置づけを変えてきています。自身が、あるいは家族ががんを抱えて生きることになった時に、どうしたら社会参加への障壁を低くすることができるでしょうか。家族の病気はどのように子どもに説明すれば良いでしょうか。子どもががんにかかった場合の教育も大きな問題です。近年では、成長期の子どもががんの治療を受けてその後の長い人生を生きる時、晩期合併症と言われる問題が生じることも明らかになってきました。この講義では、そのようながんの治療に取り組む大人や子どもとその家族の問題について、と一緒に考えてみたいと思います。第一線のビジネスマンにとって、ご自身や家族や家庭を振り返り、正面から向き合う機会にもなることでしょう。またがんを抱えて一緒に生きる仲間たちが生きやすい社会について、これから一緒に考えるきっかけとしていただければ幸いです。

*数字は全て国立がん研究センターがん情報サービスhttps://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/index.html

開講のねらい

がんサバイバーとして生きる人が多くなっている現在、がんサバイバーに対するさまざまな支援が行われるようになってきている。当事者や周囲の人がそのような支援やその背景にある困難を知ることを通して、さらにできることがないかを考えていくことにより、皆で共生可能な社会を築いていくことができればと考えている。

教養講座

良質な 社会に向けた 責任とアクション

講義番号1143

アサーション入門～自尊尊重の社会に向けて～

担当コーディネーター

名誉教授
久田 満

アサーションとは単なる自己主張のことではありません。自分も相手も大切にしたい自己表現という意味です。「自分を大切にしたい」ということは、無理せず、我慢せず、自分の思いを素直に相手に伝えることです。「相手も大切にしたい」ということは、相手の意見や気持ちなどを認め、共感し尊重することです。あなたは時々、相手の気持ちを無視して、自分の考えや願望を攻撃的に表現していませんか?逆に、相手を大切にすぎず自分の希望を隠したり、曖昧にしたりしていませんか?このような自己表現では、互いに理解し合えないどころか、人間関係がギスギスしてしまい、お互いに不満や後悔が残ってしまいます。この講座では、このアサーションと呼ばれる概念を理解し、実践力を身に付けることを目指します。知的な理解とともに、ロールプレイなどを通して、少しでもアサーションができる人になることが目標です。

開講のねらい

アサーションを身に付けると様々な人間関係(夫婦、親子、上司と部下等)が改善されます。メンタル面も良くなり、事故やミスが防げるようになります。そして、「自尊尊重の社会」が現実のものと感じられるでしょう。

講義番号1241

社会課題を起点とするイノベーションの興し方
～当該分野の国際規格の世界動向も学びながら～

担当コーディネーター

特任教授
西口 尚宏

世界的にSDGs、ESG、気候変動などに代表される社会課題を持続的な形で解決していく「サステナビリティ経営」が注目されており、サステナビリティは21世紀の国や企業の競争力を高めていく上で最も重要な概念と言えます。一方、サステナビリティはCSRやIRの分野であり、売上達成を必須とする本業とは無関係という意見や、経営者は外向きには発信しているものの社内では具体的な活動にはなっていないという例もあるようです。当コースでは、そのような状況を踏まえた上で、世界各国の先進事例を共有しながら具体的な社会課題を一つ取り上げ、課題解決を目指すイノベーションプロセスを実践していきます。その際に、イノベーション・マネジメントシステムの国際規格であるISO56002の考え方や、システム思考やデザイン思考の要素も取り入れながら、大企業からイノベーションを興す方法論も習得していきます。

開講のねらい

具体的な社会課題を軸に、毎日がレクチャーとワークショップの組み合わせ(50:50)であり、他参加者との積極的な意見交換や協働作業を通して皆さんの視点を大きく広げていくことを目指します。

講義番号1242

障害者の心理学～差別や偏見のない共生社会の実現に向けて～

担当コーディネーター

名誉教授
久田 満

いつになってもこの世から偏見や差別がなくなりません。それどころか、ヘイトスピーチやネット上での誹謗中傷、さらには暴動や殺人に至るまで、偏見や差別が元となって起こる悲惨な現象はむしろ増加傾向にあるように思われます。なぜ人は、自分達とは異なる他者(障害者、LGBTQ、他民族、外国人など)を差別し排除しようとするのでしょうか? この講座では、心理学の視点に立ち、主として心身に障害のある人々を例にして、偏見や差別がどのようなメカニズムで形成されるのかを理解することを目的とします。そのうえで、これまでに試みられてきた様々な差別の解消法について検討します。日本の障害者数は約1千万と発表されています。そのような方々に対して、そうでない人々はなぜ偏見や嫌悪感を抱いてしまうのかという疑問に対する答えを受講者の皆さんとともに考えていきましょう。なお、本講座では「障がい」ではなく、あえて「障害」と表記します。

開講のねらい

今は健康でも、病気やケガ、老化によって誰もがいつかは障害者となり得ます。受講者お一人お一人が自分事として、差別のない社会、すなわち「共生社会」の実現を目指してどう行動するべきかを考えていきましょう。

良質な 社会に向けた 責任とアクション

講義番号1243

サステナビリティ社会における企業の環境戦略
～法、政策、最前線の現場から

担当コーディネーター

法学部 地球環境法学科 教授
北村 喜宣

企業活動と環境法といえば、これまでは、規制基準へのコンプライアンス(法令遵守)が中心となっていました。現在でも「必要以上の取組み」を、マイナスと評価する企業もあります。しかし、そのような発想しかできない企業を、投資家はマイナス評価するようになってきました。本講座においては、社会的存在である企業の環境活動のあり方を、環境コンプライアンス、ESG(環境・社会・ガバナンス)、SDGs(持続可能な発展目標)という枠組みのもとに位置づけます。そして、毎回の講義においては、それぞれの企業がどのような価値や理念を認識し、どのような意思決定体制を整備し、どのような措置を講じるべきなのかを具体的に検討します。ひとつの企業は、顧客、従業員、地域コミュニティ、同業他社、機関投資家、環境団体、マーケット、将来世代など、さまざまなアクターの「眼」のもとにあります。講義や討論を通じて、それぞれの企業にとっての方向性を探究しましょう。

開講のねらい

企業は、地域社会、マーケット、そして、地球という、より大きな枠組み・コンテキストのなかで、自社の進むべき方向を考えなければならない時代となりました。本講座では、その最前線の状況をお伝えします。

講義番号1244

マジョリティ側からダイバーシティを考える：
特権と立場の心理学

担当コーディネーター

外国語学部 英語学科 教授
出口 真紀子

人は誰でもマジョリティ性とマイノリティ性のアイデンティティを持ち合わせていますが、マジョリティ性を多く持つ人は自分の特権(労なくて得る優位性)になかなか自分自身で気づくことができません。自分の特権に無自覚な人の多くは、社会的不平等とはマイノリティ側を不利な立場にするものだと思えたととしても、マジョリティ側を優遇するものだと思え方はしません。真の意味でダイバーシティを実現するためには、今まで不問にされてきたマジョリティ側の特権や心理的特徴(態度・心理・行動・成長)に焦点を当て、特権を持つ側の責任と課題に迫る必要があります。内容としては、差別に「中立」は存在するか?「平等(Equality)」と「公正(Equity)」の違いやマジョリティとマイノリティのアイデンティティ発達理論を取り上げます。

テーマ:6回(1)特権の概念を学ぶ;(2)白人特権・日本人特権;(3)男性特権①;(4)男性特権②;(5)異性愛者・シスジェンダー特権;(6)特権を持つ側の責任と課題

開講のねらい

「ダイバーシティについてどこかモヤモヤする」、「自分は何をすべきなのかがいまいちわからない」など差別や公正の課題についてマジョリティ側の立場から考えることで色々なことを発見してもらおうのが狙いです。

講義番号1151

ビッグデータ利活用：基礎と応用

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授
安納 住子

日本ではSociety5.0の実現、また、新興国ではリープフロッグ型発展の実現に向けて、ビッグデータ利活用による社会課題の解決、新たな需要、イノベーション創出等が期待されています。本講座では、ビッグデータの利活用事例について講述します。

開講のねらい

企業や地域社会が直面する社会課題に対応するための基礎力・応用力を習得することを目的とします。

講義番号1152

現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論

担当コーディネーター

理工学部 物質生命理工学科 教授
齊藤 玉緒

遺伝子組換えとゲノム編集、iPS細胞、ウイルス感染、PCR検査など、日々のニュースや報道の中でも生命科学に関わる内容が数多く取りあげられています。先端研究は驚くべきスピードで進歩しており、そこにはビジネスチャンスも数多く含まれていると考えられます。科学、特に生命科学の研究は一つの研究室の中に閉じられたものではなく、その成果は我々の日常生活に密接に繋がるものであり、またそこに国境はありません。このことは何を意味するか?私たちがこれからの社会のあり方に対してより正しい判断、意思決定をしていくためには、これらの日進月歩の研究内容を理解し、生命科学が私たちに何をもたらすのか、私たちの未来をどのように変えていくのかを考え、使いこなす力が求められています。本講座では、先端生命科学研究の内容の基礎を解説するとともに、その技術がもたらす社会の変革に対していかに判断し、意思決定をしていくのかを科学史に残る過去の事例をもとに考えます。

開講のねらい

PCR検査、抗原検査が日常化し遺伝子組換え作物が食卓に上る現代、文系理系を問わず社会のあり方や意思決定に必要な先端生命科学研究の基礎的な理解とその技術がもたらす社会変革を考えることを目指します。

教養講座

科学から

読み解く社会像

1251 先進技術と基礎科学～意思決定の依拠を考察する～

現代社会のいたるところに先進技術が使われています。その背後には基礎科学の原理があり、それを理解することで、なぜある技術が実現され別の技術は実現できないのかがわかることがあります。また、基礎科学の原理を知っておくことは重要な意思決定を行う際も欠かせず、実際、参考文献に挙げた「Physics for Future Presidents」は非常に好評です。例えば、化石燃料がなぜこのように好まれるのかはエネルギーを計算することで簡単にわかります。また、光の速さが有限だと知っておくと、コンピュータの計算スピードや情報の伝達に原理的制限がかかることが自然とわかります。この授業では、先進技術の背後にある基礎科学を解説し、基礎科学の理解に基づき意思決定ができることを目指します。また、基礎科学の法則が制限する科学技術の限界、今後なくなる職業の予測、今後の科学技術の発展について、量子コンピュータや核融合などを念頭に考察します。

開講のねらい

科学技術は自然科学の法則の範囲でのみ実現します。それゆえ科学技術の限界も自然科学の法則から議論できます。この講義では、科学の法則から最先端技術をとらえ、今後の社会のあり方を考察できればと考えています。

1252 デジタル駆動社会とBeyond 6G

デジタル技術が深化・定着し、データ利活用が浸透したデジタル駆動社会の実現に向けて、通信・メディア情報処理・AIなどのIT基礎技術のさらなる発展と、それらの技術の脳科学・生物学などのへの応用の拡張が強く期待されています。本講座ではこれらの基礎・応用分野の双方の最先端研究開発事例を紹介し、2030年導入予定の6G通信のその先の2040年以降の時代をBeyond 6Gと呼び、15年以上先の未来の技術について紐解きます。通信・メディア情報処理・AI・脳科学の専門家の4人のゲストスピーカーとコーディネーターが登壇します。ゲストスピーカーおよび講義内容は毎年更新しておりますので、過去に当コーディネーターの講座を受講した方も受講いただけます。

開講のねらい

当講義は、進歩が早くキャッチアップの難しい最先端情報通信技術と、全体像がわかりにくい情報通信産業の現状とを、6回の講義で効率的かつ効果的にお伝えできるよう工夫を行なっています。45分の講義と45分の講師とのQ&Aを通して、ご不明な点を解消し、ご興味を持ったトピックをより深く理解ください。

1253 変動する地球環境の中で生き残りをかけて：食料と環境の科学概論

現在地球上には約80億人が暮らしており、2050年には90億人に達すると言われています。私たちの活動はこの一世紀で爆発的に成長し、今や地球環境を脅かすに至っています。このような状況は、「CO2を吸収し食糧を生み出す植物」と「食糧を消費しCO2を放出する人類」の活動のバランスから視ると理解しやすいように思われます。地球環境問題への取り組みというと、COP、京都議定書、パリ協定等の言葉を思い浮かべる方が多いと思います。様々なメディアを通して地球の今が語られ、新たな取り組みが紹介されています。環境問題への取り組みについても、今すぐに出ることと、遠い将来を見据えて出ること、様々な内容が同次元で語られています。しかし、実際の科学研究という視点から見たら何が見えてくるのでしょうか？ この講座では、食糧と環境という生命の維持存続に関するキーワードを中心に、各講演者がそれぞれの分野の今について概説します。遺伝子組換え植物がどのように作られるのか？そしてどのようなメリットやデメリットがあるのか？ 地球環境の変化がどのように生物や人に影響を与えているのか？ ニュースで伝えられる事実の表と裏など、それぞれの立場で話をします。

開講のねらい

食糧と環境の問題は、多くの人が興味を持っています。実際に研究室やフィールドで植物を取り扱う科学研究者の視点から、世の中にある玉石混合の情報を選別してお伝えし、皆さんと意識共有を図りたいと考えています。

担当コーディネーター

理工学部 機能創造理工学科 教授
大槻 東巳

科学から

読み解く社会像

担当コーディネーター

1254 イノベーションを推進するソシオ・エコシステム

アメリカのIT産業では、エコシステムという用語が広く用いられています。海や空や川があって、豊かな森や土壌があり、日の光が降り注ぐ中で、環境に適した生物が生まれ、育ち、次の世代へと引き継がれていく。シリコンバレーに代表されるアメリカのIT産業はそれと同じようなシステムに支えられているというわけです。さまざまな人間の営みを支える社会経済も同じです。質の高い市場があって、それを支える法律や制度があり、優れた判断力、洞察力、好みに導かれ、さまざまな技術が生み出され、経済活動が営まれ、次の世代に引き継がれていく。イノベーションを活性化し、明るい将来が見いだせる充実した生活を営むためには、そういうソシオ・エコシステムが不可欠です。本講義では、質の高い市場とは何か、どんな法や制度がそれを支えるのか、エコシステムを支える判断力、洞察力、好みとはどんなものか、を社会科学的視点から明らかにし、健全なソシオ・エコシステムの構築によるイノベーション推進の道を考えます。

開講のねらい

日本経済は、30年以上にわたる長期停滞になやんでいます。長期停滞の原因として、少子高齢化がよくやり玉にあげられます。しかし、人口を増やしたところで、人々の生産性が向上しなければなりません。経済やビジネスを活性化するために本当に必要なのはイノベーションの推進です。そうはいっても、号令をかければイノベーションが実現するというわけでもありません。どのようにしたら、経済や企業にイノベーションを導入できるのか。それを受講者と一緒に考えます。

担当コーディネーター

1161 交渉学入門：より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル

私たちの生活は無数の交渉から成り立っています。より良い交渉ができることは、大きな強みとなりますし、逆に、交渉力がなければ、どれだけ良い知恵・アイディア・リソース等を持っていたとしても、それらを十分に活かすことは難しくなります。交渉には、取引先との価格や取引条件の交渉、トラブルを解決するための交渉、組織内での交渉、外交交渉、日常生活での交渉、代理人を介した交渉など、多様なものがありますが、どのような交渉に臨む場合であっても理解しておくべき基本、身に付けておくべきスキルがあります。本講座では、より良いネゴシエーターとなるために理解しておくべき基本的な概念・枠組みやその活用の仕方、交渉を通じて価値を創造し分配するための視点やスキル、より良い交渉に役立つコミュニケーションのためのポイント、交渉に影響を与える人的な要因と対処法、交渉のプロセス、難しい交渉に対処するための手掛かり、多数当事者交渉のポイント等を学びます。講座は、①理論・枠組み・スキルについての講義、②講義で学んだことを実践するロールプレイ、③参加者間のディスカッション等を組み合わせて講座を進めます。参加者の方々の主体的な参加が求められます。

開講のねらい

よりよい交渉を行うためには、経験も必要ですが、研究の成果も踏まえたセオリーを理解し、スキルを身に付けることが有用です。この講座でそれらを得て頂き、日々の交渉に役立てて頂きたいと思います。

担当コーディネーター

1162 グローバルコミュニケーション・リテラシー～グローバルメディアの変容と相互理解

グローバル化が進むなかで、私たちは、必然的に、言語や民族、文化、そして、政治経済的なシステムが異なる社会に暮らす人たちとの相互理解を求められる機会が増えてきているのは確かです。本講義では、「グローバル化の進展」と「相互理解」をキーワードに、20世紀にグローバルなメディア・システムがどのような歴史的な経緯を経て生成・発展してきたかを踏まえつつ、近年のデジタル・メディアが普及・浸透するなかで、既存のメディア・システム、ジャーナリズムが直面するさまざまな問題や課題について、理論と現場の実例から検証します。また、グローバルなデジタル・メディアがシステム形成されつつあるなかで生じている課題と可能性について、日本からの国際発信や、西側先進諸国に拠点を置くメディア・コングロマリットの展開といった実例などを挙げながら、グローバル・メディアのありようについて分析・検証していきます。その上で、現代のグローバル・メディア、グローバル・コミュニケーションに求められるリテラシーについて考えます。講師には、国際的な報道現場で活躍してきたジャーナリストや、先進主要国のメディア戦略を研究してきたメディア研究者、実際にメディア・コンテンツのグローバル展開に携わってきたメディア事業経営者などに登壇いただき、理論的な視点と実務経験・実践的な視点を踏まえながら、講義を進める予定です。

開講のねらい

「グローバル化の進展」と「相互理解」をキーワードに、民族、宗教、文化、体制などの違いに私たちはどう向き合ってきたのかについて、メディア・コミュニケーションの理論と現場の実例から検証します。

担当コーディネーター

1261 質問力を磨く[入門編]～脱・思考停止～

質問力を磨く基礎講座です。まずは「自分以外の誰かになりきって」新聞を読み、疑問を言葉にするところから始めましょう。講座はグループワークが中心です。〇〇社の△△という肩書きを教室の外に置いてきて、床に座り、仲間と目線を合わせ、対話を重ねていきましょう。質問には解が必要ですが、これも仲間と一緒に対話しながら、言葉にいきましょう。「自分以外の誰か」になって自分を見たら、どんな問いが浮かんでくるでしょうか。これが次のステップです。

開講のねらい

「質問なんて恥ずかしい」「相手に悪く思われるかもしれない」……。私たちはさまざまな思いから、質問をためらい、胸の奥にしまいがちです。いつの間にか「質問しないのは当たり前」になり、目の前の理不尽にも気づかなくなります。

New TOPIC！コミュニケーションに特化した3講座を設置し、世界に通用するグローバルコミュニケーションの探究へと導きます。

講座2101 交渉力を磨く

～人を動かす交渉・コミュニケーション術：“納得”の導き方～

「あれ、ちゃんと合意したのに相手がいつまでたっても合意内容へのコミットメントをしてくれない」「いいアイデアはあるのだけれど、どう説明したら周りの人たちからサポートを得られるのだろうか」「どうすれば、自分の言いたいことを相手に的確に伝えることが出来るだろうか」「相手が本当は何を考えているのだろうか？」日々のお仕事や生活の中で、そのようなお悩みをお持ちではないでしょうか。また「自分は交渉やコミュニケーションが苦手だ」とお感じになっていて、お仕事や日常生活において交渉を極力避けようとしているかもしれません。交渉とは、結果を伴うコミュニケーションであり、『自分が欲しいものを手に入れるために行う』行為です。それは、つまり、『交渉を通じて、相手から、あるいは相手と共に、欲しいものを手に入れること』を意味します。本講座では、『交渉において自分が目指すゴールをいかに効率的に手に入れることが出来るか』、そして『いかにして自らの目的の達成を、当事者間の納得の下、行うことが出来るのか』というリーダーのための究極の交渉・コミュニケーション術を理論と実践を通して身につけることを目的としています。ケーススタディを通じて、より実践に近い交渉を実際に体験していただきつつ、行動心理学に基づく心理の理解と交渉テクニックを組み合わせた【明日からすぐに使うことが出来る“行動心理に基づいた交渉・コミュニケーション術”】を身につけていただきます。ぜひ本講座を通して、必ず結果を残すことが出来るネゴシエータへの変貌を遂げていただければと願っています。

開講のねらい

優れた交渉力は仕事や日常生活をより実り多いものとするうえで重要です。交渉のプロフェッショナルからより良い交渉のためのポイントを学ぶことで、自己流の交渉から卒業し、交渉の達人を目指しましょう。

講座2102 傾聴力を磨く～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～

「あなたは上司として日頃、部下とうまくコミュニケーションを取っていますか？」と尋ねると、「はい」と答える管理職も少なくないかもしれません。しかし、部下はどう思っているのでしょうか？「私の上司は私のことをよく理解してくれている」と感じている部下は少数ではないでしょうか。この講座は企業の管理職（実際に部下をもっている人）を対象として、部下の「心の声」を聴ける能力、すなわち傾聴力を身につけることを目的としています。教科書は使いませんし、講師の解説も最小限に留めます。ただひたすらスキルを磨きます。ロールプレイを中心として、毎回、全受講者の前で実演して頂きます。言語的コミュニケーションだけではなく、「沈黙」といった非言語的コミュニケーションにも注目して頂きます。なぜなら非言語的コミュニケーションの方が真実を語っていることが多いからです。

開講のねらい

傾聴力は部下、そして同僚や上司との信頼関係の構築に有効な能力です。その傾聴力であなたの管理下の部局を、そして会社全体をより良い方向に変革していった欲しいと思います。

講座2103 質問力を磨く【実践編】～脱・思考停止～

※[入門編]未受講の方も受講可能です。

質問を言語化し、解決の糸口を探り出しませんか。そのために必要なのは、一緒に学ぶ仲間です。属性も肩書きも放り投げて、仲間と対話を重ねましょう。ひとりではつかめなかった問いを手にすることができます。新たな問いは、新たな道筋を示してくれます。本講座は「質的統合法」を使って、自分の抱えている現実を可視化していきます。「迷走する会議にうんざり」「部下（上司）との関係に頭が痛い」…。身近な問題の課題の解決策を探っていきましょう。その過程で「今、何をすべきか」も見えてくるはずです。

開講のねらい

日常を「大過なく」過ごしたいために、私たちは自分の中の「問い」に目をつぶりがちです。それが小さな問題を難問にしていることにも気づかず。

担当コーディネーター

法科大学院 教授

森下 哲朗

担当コーディネーター

名誉教授

久田 満

担当コーディネーター

特任教授

松本 美奈

担当コーディネーター

経済学部 経営学科 教授

西澤 茂

企業の持続的成長を進めるうえでは、グローバル市場の急激な変化に対応するための適切な市場進出と事業展開を行うとともに、国内外の投資家からの積極的な資金調達が重要になりつつあります。近年では、グローバルスタンダードであるIFRSの会計基準に準拠した財務情報に加えて、ESG投資が急速に進む中、SDGs関連の非財務情報の適正開示も、企業には強く求められる状況にあります。本講義では、グローバル企業の会計情報にフォーカスして、企業の会計情報の適正開示の方法を検討するとともに、グローバル企業の公表会計情報から直近の経営・会計戦略の動向を分析することを目的とします。また、ゲスト・スピーカーには、経営の現場視点からのグローバル企業の現状を紹介して頂いた上で、受講者とのディスカッションを通じて、日本企業におけるグローバル化の意義について検討することを目的とします。

開講のねらい

企業の経営層として活躍する上では、グローバル企業の様々な戦略策定を会計情報から適切に分析する視点が必要不可欠です。本講義では、そのスキルの習得を目標に、講義を展開しています。

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授

織 朱實

講座2202 コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト：コロナ以降企業は変革に向けてどのように対応していくのか

現在、企業活動を継続していくためには「環境」への配慮は不可欠です。しかし、その対応もCSRからCSVへ、さらに持続可能性をコンセプトとしたSDGs、ESG、グローバルコンパクト、TCFDと様々です。こうした中で、企業はどのように変化する「環境」に対応していくのか、環境を巡る企業のパラダイムシフトのあり方とはどのようなものか、真剣に考えていかなければなくなっています。特に、コロナ以降新たに変化してきた価値観に企業としてどのように対応していくのか、海外の動向もふまえ、変化する環境に流されることなく、そこにポジティブな意義を見出していくためには、変化の潮流を正しくつかむことこそが今まさに企業に求められていると考えます。本講義では、企業活動にとって影響の大きな様々な分野、金融と環境、生物多様性、プラスチック問題、サーキュラーエコノミー、地域活性化、市民対話について、その分野を代表する専門家による最新の情報を提供していただくともに、カードゲーム、グラフィック・ファシリテーション、ワークショップなどを通じて、双方向のダイアログを図りながら企業のパラダイムシフトについて一緒に考えていきたいと思っています。

開講のねらい

SDGsを企業が、真に理解し目標達成に向けて活動していくには、それぞれの目標と課題について、コロナ以降の変化や、世界的な潮流を理解しなければなりません。各分野のプロフェッショナルとともに、様々な角度から議論を深めていきます。

担当コーディネーター

特任教授

百瀬 公朗

講座2203 データサイエンスの実践 ―資産化するデータと技術―

企業の経営層の約7割は、今後5年間でAIを拡張できないと、会社存亡の危機があると考えています。AIの新しい研究結果が頻繁にリリースされ、それがデータに大きく依存しているため、多くの企業はデータサイエンティストを雇ってデータを活用し、時流に乗ろうとしています。残念ながら、企業はデータサイエンティストとは何か、企業が成功するために何が必要か、そして彼らの仕事企業が業やそのユーザーにどのように貢献できるかを誤解しているところがあります。このコースでは、まずデータサイエンティストとは何か、成功するために何が必要かを明確にし、次にさまざまな分野とバックグラウンドの専門家がサービス（データ駆動型戦略など）やプロダクト構築・展開の経験を講義いたします。自社のデータをいかに資産化し、ビジネスを変革していくために活かすかの知見を提供いたします。

開講のねらい

データサイエンスおよびデータサイエンティストについての本来的な意義と活用について、最先端の現場で活躍しているデータサイエンティストおよび実務家が実践的な講義を行います。

担当コーディネーター

名誉教授

私市 正年

講座2204 歴史の理論と文明論 ―歴史に学ぶ、歴史から考える「今」という時代と社会―

歴史が過去から現在に至る時間上にある現象だとすれば、私たちが生きている現在は、歴史の最前線に位置することになります。その長い歴史には、戦争があり、国家の形成・繁栄・滅亡があり、また科学技術や思想の発明・誕生もありました。それでは、私たちはいま、いかなる時代と社会に生きているのでしょうか。本講座では、今日の「時代」と「社会」の諸問題について、歴史の理論と文明論を軸として、具体例をとりあげながら歴史に学び、歴史から考えていきます。まず、ローマ帝国の多民族国家の実態、続いて植民地支配と民族形成についてアルジェリアを事例にして検討します。つぎに、世界史とは何か、その問題点とは何かを考え、それに代わる新しい世界史の提示と、さらに最近のグローバル・ヒストリーという考え方を考察します。その後「文明の衝突論」と「文明の接近」という二つの異なる文明をめぐる議論が提起する問題について意見を交わします。最後にヒトラーとナチズムの歴史と「エネルギーと文明」という具体的素材を通じて歴史と文明における正負（価値両面性）の遺産の問題を議論したいと思います。

開講のねらい

狙いは、今日的諸問題（地域紛争であれ、人口問題であれ、宗教問題であれ）が歴史と深く関わっていることと、諸問題の理解には長い時間的スパン（歴史）で考えることの重要性を共有することです。

2023年度開講スケジュール

■ 教養講座(平日) 全6コマ 朝 8:30-10:00 昼 15:30-17:00 夜 18:30-20:00 全ての講義をオンラインで実施します

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1111	吉川 まみ	人・自然・社会の持続可能性とインテグラルエコロジー	春	金	夜	4/14	4/28	5/12	5/26	6/9	6/23
1112	大橋 容一郎	SDGsとグローバル化の哲学		水	夜	4/12	4/19	4/26	5/10	5/17	5/24
1121	長尾 直茂	伝統文化から見た日本		木	夜	6/1	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13
1122	飯島 真里子	グローバル・ヒストリーズ：世界のつながりを紐解く歴史観		金	夜	4/21	5/12	5/26	6/9	6/23	7/14
1131	私市 正年	イスラームをどう理解するか？－原理・原則と多様性を考える		木	夜	6/1	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6
1132	まくだなど あん	21世紀における「グローカリズム」と持続可能性：日本列島におけるレジリエンス及びダイナミックな順応的管理の可能性を探る		木	夜	5/11	5/18	5/25	6/1	6/8	6/15
1142	横山 恭子	病とともに「生きる」を支える		水	夜	4/19	5/10	5/24	6/7	6/21	7/5
1143	久田 満	アサーション入門～自他尊重の社会に向けて～		月	夜	5/8	5/22	6/5	6/19	7/3	7/10
1152	齊藤 玉緒	現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論		木	夜	4/27	5/11	5/25	6/8	6/22	7/6
1162	音 好宏	グローバルコミュニケーション・リテラシー ～グローバルメディアの変容と相互理解		水	朝	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19
1211	永井 敦子／山崎 瑛莉	アフリカの智に学ぶ ～サハラ以南アフリカの慣習や文化から～	秋	木	夜	10/5	10/19	11/9	11/16	11/30	12/14
1213	寺田 俊郎	仕事に生かす哲学的対話 ～深く豊かな思考のために		月	夜	12/4	12/11	12/18	1/15	1/22	1/29
1221	川村 信三	世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く～教皇庁の歴史と外交から～		金	夜	10/6	10/20	11/10	11/24	12/8	12/22
1231	ユー・アンジェラ	越境する日本文学と美術		水	昼	9/27	10/11	10/25	11/8	11/22	12/6
1232	矢澤 達宏	アフリカのいまを知る ～ステレオタイプを越えて～		金	夜	9/29	10/13	10/27	11/17	12/1	12/15
1233	国枝 智樹	グローバルリスクと戦略的コミュニケーション		火	夜	11/7	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12
1234	都留 康子	海と安全保障		火	夜	10/3	10/10	10/24	11/7	11/21	12/5
1235	まくだなど あん	Environmental Issues in the 21st Century : A Case Study Approach to Practical Learning		木	夜	11/9	11/16	11/30	12/7	12/14	12/21
1241	西口 尚宏	社会課題を起点とするイノベーションの興し方～当該分野の国際規格の世界動向も学びながら～		水	夜	10/4	10/18	11/8	11/22	12/6	12/20
1242	久田 満	障害者の心理学～差別や偏見のない共生社会の実現に向けて～		月	夜	10/2	10/16	10/30	11/13	11/27	12/11
1243	北村 喜宣	サステナビリティ社会における企業の環境戦略 ～法、政策、最前線の現場から		月／火	夜	12/4	12/18	1/9	1/22	2/13	2/26
1251	大槻 東巳	先進技術と基礎科学 ～意思決定の依拠を考察する～		金	夜	10/6	10/20	11/10	11/24	12/8	12/22
1252	矢入 郁子	デジタル駆動社会とBeyond 6G		月	夜	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
1253	神澤 信行／藤原 誠	変動する地球環境の中で生き残りをかけて：食料と環境の科学概論		金	夜	9/29	10/13	10/27	11/10	11/24	12/8

■ 教養講座(土曜) 全6コマ A ①10:00-11:30 ②12:30-14:00 ③14:15-15:45 B ①10:30-12:00 ②13:00-14:30 ③14:45-16:15 C ①14:15-15:45 ②16:00-17:30

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1141	石井 由香理	ジェンダー・セクシュアリティの社会学入門	春	土	A	4/15①	4/15②	4/15③	4/22①	4/22②	4/22③
1151	安納 住子	ビッグデータ活用：基礎と応用		土	B	4/15①	4/15②	4/15③	4/22①	4/22②	4/22③
1161	森下 哲朗	交渉学入門：より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル		土	A	4/8①	4/8②	4/8③	4/15①	4/15②	4/15③
1212	鈴木 守	身体知の実践 ～ソマティックな人間観に依拠して～	秋	土	A	11/11①	11/11②	11/11③	11/18①	11/18②	11/18③
1222	山岡 三治	グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服～ローマ・カトリック教会の世界伝道の試行錯誤に学ぶ～		土	A	10/14①	10/14②	10/14③	10/28①	10/28②	10/28③
1223	寺田 勇文	アジア・太平洋戦争(1941-45年)をふりかえる		土	A	10/14①	10/14②	10/14③	10/28①	10/28②	10/28③
1244	出口 真紀子	マジョリティ側からダイバーシティを考える：特権と立場の心理学		土	A	10/28①	10/28②	10/28③	11/11①	11/11②	11/11③
1254	矢野 誠	イノベーションを推進するソシオ・エコシステム		土	C	11/11①	11/11②	11/18①	11/18②	11/25①	11/25②
1261	松本 美奈	質問力を磨く[入門編] ～脱・思考停止～		土	A	12/2①	12/2②	12/2③	12/9①	12/9②	12/9③

■ スペシャリスト養成講座 全8コマ (平日) 夜 18:30-20:00 (土曜) A ①10:00-11:30 ②12:30-14:00 ③14:15-15:45 D ①10:00-11:30 ②11:45-13:15 ③14:15-15:45(④16:00-17:30)

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
2101	森下 哲朗	交渉力を磨く～人を動かす交渉・コミュニケーション術：“納得”の導き方～	春	土	A	6/17①	6/17②	6/17③	6/24①	6/24②	6/24③	7/1①	7/1②
2102	久田 満	傾聴力を磨く～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～		金	夜	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30
2103	松本 美奈	質問力を磨く[実践編] ～脱・思考停止～		土	D	7/1①	7/1②	7/1③	7/1④	7/8①	7/8②	7/8③	7/8④
2201	西澤 茂	国際会計 ～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～	秋	木	夜	9/28	10/5	10/12	10/19	10/26	11/9	11/16	11/30
2202	織 朱貴	コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト：コロナ以降企業は変革に向けてどのように対応していくのか		土	D	10/7①	10/7②	10/7③	10/14①	10/14②	10/14③	10/21①	10/21②
2203	百瀬 公朗	データサイエンスの実践－資産化するデータと技術－		木	夜	9/28	10/12	10/26	11/9	11/30	12/14	1/11	1/25
2204	私市 正年	歴史の理論と文明論－歴史に学ぶ、歴史から考える「今」という時代と社会－		水	夜	10/18	10/25	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13

※2023年4月時点での開講スケジュールとなります。今後、やむをえず変更になる場合があります。

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト
https:// www.sophia-professionalstudies.jp



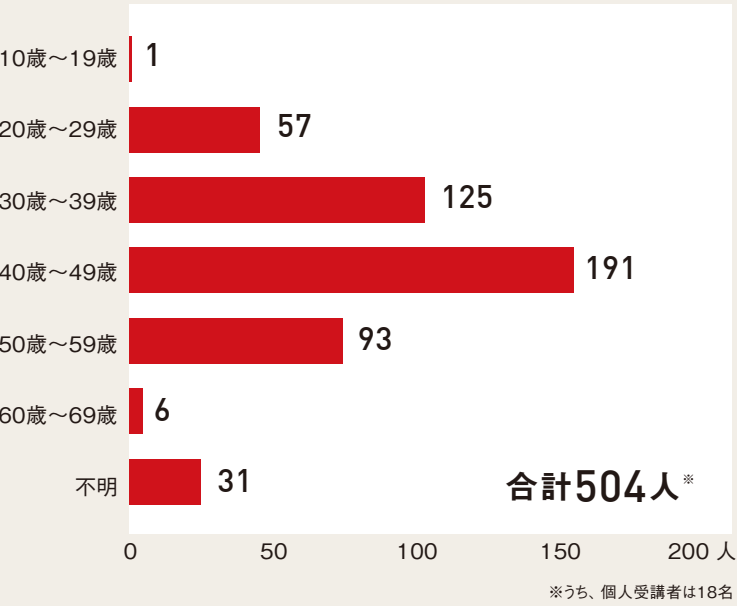
ARCHIVES

2022年度開講講座

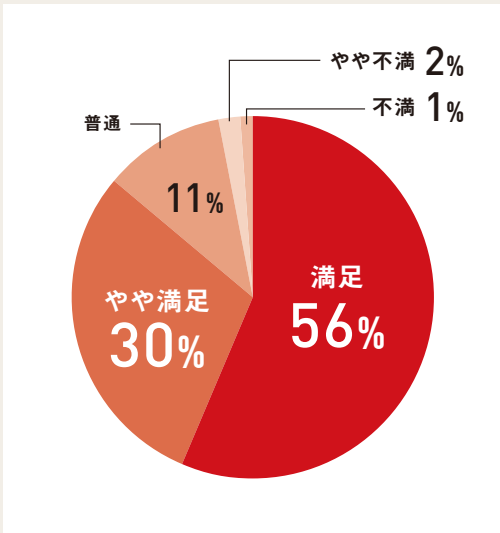
Feedback from students

受講者アンケート(2022年度受講者)

受講者内訳



講座を受講していかがでしたか？



受講者の声

- 普段読む本や業務上接する情報では触れることが少ない分野であり、先生のネットワークで得た情報を交えた講義でしたので、新たな知への出会いと知識の深掘りができ、良い刺激となりました。
- 日々の業務で課題を感じ、講座で吸収する内容を課題に照らし学ぶことで、業務では得られない気づきを得られる。また、他の受講生との交流も多いため、ネットワークを拡げたい方にもお勧めできる。
- ビジネス講座などはいくらでも研修会社が開催していますが、そうでない部分を講師の方から学ぶ機会は今の日本ではあまりない機会ですので、とても素敵な機会でした。
- 業務に直結しないからこそ、応用力や気付き力が鍛えられるため。

2022年度講座紹介

2022年度開講講座の一部を受講者の声とともにご紹介します。

2022年度は教養講座32講座、スペシャリスト養成講座5講座、合計37講座を開講。

※コーディネーター、講師の肩書きは2022年4月時点のものを掲載

教養講座

人間の本質と
倫理、哲学

講座1212 身体知の実践～ソマティックな人間観に依拠して～

身体をテーマ化することの現代的意義について、現代社会論の文脈で議論することから本講座はスタートします。現代社会やマスメディアを席卷する身体をめぐる様々な社会現象がどのような問題性を孕み、その結果どのような身体観を人々にもたらすのかを探ることでその特性を捉えます。社会的に築かれた現代的身体観こそが、その延長としての世界構築の枠組となり、それが科学技術優先主義や経済合理性によって牽引されて今日に至るのです。この文明化の過程では機械的合理性がもてはやされ、一方でないがしろにされてきたのは「身体知」「身体性」や「内なる身体(ソーマ)」への配慮です。多様な職業的背景をもった講師陣は、それぞれ固有の身体性やソマティックなワークを実践しています。参加者全員が体験する参加型の講座を通して、身体知の存在を肌で感じ、理解し、その感覚経験がより良き世界の構築にどのように活かせるのかを学ぶこととなります。混迷する時代であることが、かえって本講座の存在意義となるのです。

各回の講義テーマ

- 第1回:なぜ“身体”を問うのか
- 第2回:ソマティック禅の実践
- 第3回:「ソマティック」の理論的世界
- 第4回:ソマティック教育の展開
- 第5回:東洋の身体技法に学ぶ
- 第6回:コミュニケーションとしてのバイオダンス(生命のダンス)

受講者の声

理論に囚われず、体験・体感なボディーワークを通して、「教養」とは、知識の蓄積ではなく、受講者自身が、世界観を感じ取る触感として身体を駆使して生きている事を体感する事が出来た。

担当コーディネーター

基盤教育センター 教授

鈴木 守



講師陣

- 鈴木 守(上智大学基盤教育センター教授)
- 藤田 一照(曹洞宗僧侶)
- 村川 治彦(関西大学教授)
- 吉田 美和子(上智大学教授)
- 長谷川 智(山伏、上智大学非常勤講師)
- 内田 佳子(国際ビオダンス連盟公認ファシリテーター)

科学から
読み解く社会像

講座1152 現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論

遺伝子組換えとゲノム編集、iPS細胞、ウイルス感染、PCR検査など、日々のニュースや報道の中でも生命科学に関わる内容が数多く取りあげられています。先端研究は驚くべきスピードで進歩しており、そこにはビジネスチャンスも数多く含まれていると考えられます。科学、特に生命科学の研究は一つの研究室の中に閉じられたものではなく、その成果は我々の日常生活に密接に繋がるものであり、またそこに国境はありません。このことは何を意味するか？ 私たちがこれからの社会のあり方に対してより正しい判断、意思決定をしていくためには、これらの日進月歩の研究内容を理解し、生命科学が私たちに何をもたらすのか、私たちの未来をどのように変えていくのかを考え、使いこなす力が求められています。本講座では、先端生命科学研究の内容の基礎を解説するとともに、その技術がもたらす社会の変革に対していかに判断し、意思決定をしていくのかを科学史に残る過去の事例をもとに考えます。

各回の講義テーマ

- 第1回:現代社会の中の生命科学:「社会化された科学」
- 第2回:過去に学ぶ生命科学:分子生物学の始まり
- 第3回:現代へとつながる生命科学:ゲノム科学
- 第4回:現代の生命科学:生命科学の光と陰
- 第5回:物理学の原理から読み解く生命科学
- 第6回:グローバルな視点で考察する現在・未来の生命科学

受講者の声

一見、私たちの生活や現代社会と無関係に思われるような生命科学の諸領域が、実はごく身近な関係にあり、様々な角度・レベルで影響を及ぼしていることに気づきを与えられました。

担当コーディネーター

理工学部 物質生命理工学科 教授

齊藤 玉緒



講師陣

- 齊藤 玉緒(上智大学理工学部教授)
- 大槻 東巳(上智大学理工学部教授)
- 坂本 啓(コペンハーゲン大学健康・医科学部 教授、ノボノルディクス財団 基礎代謝研究センター 副センター長)

スペシャリスト養成講座

講座2202 コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト:

コロナ以降企業は変革に向けてどのように対応していくのか

現在、企業活動を継続していくためには「環境」への配慮は不可欠です。しかし、その対応もCSRからCSVへ、さらに持続可能性をコンセプトとしたSDGs、ESG、グローバルコンパクト、TCFDと様々です。こうした中で、企業はどのように変化する「環境」に対応していくのか、環境を巡る企業のパラダイムシフトのあり方とはどのようなものか、真剣に考えていかなければなくなっています。特に、コロナ以降新たに变化してきた価値観に企業としてどのように対応していくのか、海外の動向もふまえ、変化する環境に流されることなく、そこにポジティブな意義を見出していくためには、変化の潮流を正しくつかむことこそが今まさに企業に求められていると考えます。本講義では、その分野を代表する専門家による最新の情報を提供していただくともに、カードゲーム、NGOの方との対話、ワークショップなどを通じて、双方向のダイアログを図りながら企業のパラダイムシフトについて一緒に考えていきたいと思います。

各回の講義テーマ

- 第1回:金融と環境
- 第2回:SDGsとは、なにか。SDGsの企業活動への影響
- 第3回:企業とサーキュラーエコノミー
- 第4回:企業と生物多様性
- 第5回:プラスチック問題と企業
- 第6回:気候変動対策のためのイノベーション
- 第7回:NGOと環境 市民目線からの環境問題
- 第8回:SDGsカードゲーム(総括ワークショップ)

受講者の声

地球上で今を生きるわたしたちが、まずは知らなければならない課題が多く盛り込まれており学びが多かった。グローバルな視点での講義に気がつきがあり、日本はどうかと振り返ってアクションにつなげる必要があると感じた。

実務者と学者のそれぞれ専門分野からの最新情報を踏まえた講義の内容だったのでとても有意義であった。

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授

織 朱實



講師陣

- 織 朱實(上智大学地球環境学研究科教授)
- 末吉 竹二郎(国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)特別顧問)
- 安井 至(国際連合大学名誉副学長、東京大学名誉教授)
- 井田 徹治(科学ジャーナリスト 共同通信社)
- 横山 泰治(プロジェクト「From」代表・パラダイムシフトコミュニケーショントレーナー)
- 喜多川 和典(公益財団法人日本生産性本部 コンサルティング部 エコ・マネジメント・センター長)
- 足立 直樹(株式会社レスポンスアビリティ代表取締役)

スペシャルトーク

各分野の専門家や著名人を招き、グローバル経済の動向、国際関係の行方など、グローバル関連の課題を紐解きます。

第1回「リスクを取る勇氣

～ダイバーシティとインクルージョン(D&I)を受け入れ、革新的な地球市民へ～

前在日米国商工会議所会頭 ジェニファー・ロジャーズ

第2回「中国をめぐる内外情勢」

日本オリンピック委員会(JOC)常務理事、前在中国大使 横井 裕

第3回「ESGを取り巻く世界的潮流と投資家の視点」

上智大学特任教授、学校法人上智学院理事 引間 雅史

第4回「揺らぐ経済秩序、グローバルビジネスも転換点へ」

ジェトロ(日本貿易振興機構)理事 小野村 拓志

「ロシア・ウクライナ問題が日本企業に与える影響」

ジェトロ(日本貿易振興機構)海外調査部 主幹(ロシアCIS地域担当) 下社 学

第5回「ビジネスパーソンに求められる教養と読書の意味」

多摩大学社会的投資研究所教授・副所長、一般社団法人100年企業戦略研究所所長 堀内 勉

第6回「世界の難民問題とメディアの役割」

キャスター・ジャーナリスト 長野 智子



第6回登壇
キャスター・ジャーナリスト
長野 智子氏